

平成26年度 第5回 利用者懇談会 議事録

文責：佐藤

日付：平成26年12月6日（土） 13：30～15：00

場所：喜多方市立図書館2階 第2閲覧室

出席者：公募6名（中学生～一般）、文化課2名、図書館2名

配布資料：①『平成26年度 利用者懇談会プログラム』

②『平成26年度 広報活動および読書推進事業実施計画』

③『蔵書構成・雑誌新聞保存について（平成25年度喜多方市立図書館年報より抜粋）』

④『図書館だより（わくわくとしょかんメール、ききみみずきん）平成26年度発行（春号から秋号）』

⑤『喜多方市立図書館利用案内』

1. 開会

2. 主催者挨拶（館長）

3. 議事

1) 図書館の現状報告

2) ディスカッション

<テーマ>

- ① 図書館の蔵書について（参考：平成25年度図書館年報より）
- ② 図書館の催し物について
 - ・今年度の催し物報告
- ③ 図書館だよりの内容について（ご意見）
 - ・ききみみずきん（一般用）
 - ・わくわくとしょかんメール（児童用）
- ④ 催し物の広報手段について（ご意見）
- ⑤ 意見交換（ご意見・ご要望等）

～蔵書について～

利用者A 今は塩川に住んでいるが、以前は旧市街に住んでいた。旧市街に住んでいる間は図書館を利用していた。塩川は公民館内に図書室があるが、地域の人に知られていない。借りる人がいない。広報があまりされていないように感じる。利用者が少ない為寂れている。貸し出しも昔ながらのカード式である。

利用者 B 山都の公民館はもう少し利用されているように感じる。県立図書館から定期的に借りてきたものを並べていたりする。ボランティアも入って、本の整理などを行っている。

利用者 A 以前塩川の人が市立図書館でボランティアをしていたようだ。指定管理になる前のことだが。

利用者 B 熱塩地区なども同様に公民館図書室なのか？

図書館 同じである。公民館の中に図書室がある。

利用者 B 市立図書館と公民館図書室は連動している。市立図書館の本を公民館図書室で返却できる。

図書館 一時期公民館図書室に返却できるということもしていたが、タイムラグが生じてしまうため、今はなるべく市立図書館に返却をお願いしている。

利用者 B 市立図書館と公民館図書室が連携していることはあまり知られていないのではないかと？

図書館 各公民館図書室の担当の方と年に数回連絡会を持っている。

利用者 A 山都の貸し出しも昔風のカード式なのか？

利用者 B カード式である。ただ登録制度があり、名前を書きたくない人は番号を登録しておいて、番号の記入で借りられるようになっている。公民館図書室も電算化することは難しいのだろうか？

図書館 他の自治体でやっているところもある。今すぐにはできない。

利用者 B 名前を記入するカード式でもそんなに負担ではない。不明になってしまう本もあるが。

利用者 C 図書館だけで解決できることではない。喜多方市は公民館の所管は生涯学習課、図書館は文化課が所管している。他の自治体で図書館を文化課が所管

しているというところはあまりないと思う。他の自治体で円滑に運営しているところは、生涯学習課が所管している。公民館の蔵書でもオンライン化を図っているところはある。喜多方でそれを検討するには、図書館を所管してる文化課だけではできない。連絡会の域を出ない。公民館図書室の蔵書は一覧などはないのだろうか？

図書館 図書館で登録したものに関しては一覧できる。公民館にある本は市立図書館から貸し出したものという形になる。合併前からの蔵書はその限りでない。後々整理はしなくてはいけないという話にはなっている。各地区の図書室の郷土資料は把握したい。

利用者 C まずは公民館図書室の蔵書のデータ化が必要である。

利用者 A 学校には図書室があるのか？

利用者 C 学校図書館法で設置が義務付けられている。

利用者 B 山都小学校の図書室は、校長先生が改革をして大変よい図書室になった。学校図書館が充実すれば、子どもたちにとって図書館が身近になり、公民館図書室や市立図書館を利用してみようとなるのではないか。子ども向け広報誌のとしょかんたんけんとは？

図書館 最初は図書館の中だけを紹介していたが、紹介することがひと段落したので、地区の小学校の図書室を紹介していこうということになった。今準備中の冬号では、高郷小学校取材した。

利用者 B よい企画だと思う。取材される方も嬉しいだろうし、よその小学校の図書室の様子を知ることができる。

図書館 小学校の図書委員に取材することになっている。子どもたちの生の声を載せる。

～催し物について～

図書館 大人向け、子ども向けとバランスをとっているが、子ども向けのものが派手に見えて、大人向けの催し物がないと言われてしまう。実際は大人向けのも

のが多くある。また中高生の参加があまりない。小学生以下は保護者が一緒にないと参加が難しいので、親子で楽しめるものをと考えている。

利用者 B 旧市街の人は図書館へ足を運びやすいが、新しく合併した地域在住者の利用はどうか？来る機会が多い人と馴染みのない人に分かれていると思う。図書館で催し物があることも知らない人がいると思う。馴染みがない人でも、足を運んでみたら面白く思うこともある。新市街の人を集客する方法はあるだろうか？

図書館 大人向けの広報紙は各公民館に配布している。年齢層が高い人達が多くお住いの地域では、図書館まで足を運ぶこと自体が大変と言われている。中央公民館や岩月公民館などでは、小さい子向けの出張お話をしている。図書館まで足を運べない人たちのことをどうするかが現在の課題である。

利用者 C 県立図書館では、図書館の設置市町村と未設置市町村を分けてサービスしている。塩川などは未設置市町村としてあづま号が派遣されていたが、合併したことによって設置市町村となってしまう、かえってサービスが低下してしまった。喜多方市が予算を充てて、以前のサービスに近づけるようにしなくてはならない。他の自治体でも、合併したところでは移動図書館車を買って、旧市町村を巡回するようにしているところもある。本宮市などはそうしている。合併によってサービスの低下を招いたことは損失である。喜多方市でも、新しく合併した地域に平等にサービスを提供しなくてはならない。出前事業なども検討しなければならないのではないかと？市内のいろんな機関と連携して、文化振興の一翼を担うようになってほしい。県も同様に、博物館やまほろん、アクアマリンなどは予算を獲得して、学芸員が外に出て出前講座を行っている。図書館もそういった発想がほしい。鉄道展は地区の巡回などもできるのではないかと。そうすればもっと多くの人に対して身近な施設となる。

利用者 B そういうものこそ、市が主導して、教育委員会や生涯学習課と連携していければよいと思う。図書館の指定管理者だけでできることではない。

利用者 C 例えば公民館の蔵書をチェックするにしても、ボランティアではできない。緊急雇用などで行うなどの努力が必要だが、図書館だけでできることではない。

～図書館だよりの内容について、また広報手段について～

利用者 B 先日の読み聞かせの講座はとてもよかった。読み聞かせ講座はあちこちでやっているが、身近な図書館でやってくれたのはありがたかった。ステップアップしたような形のを、またやってほしい。またレファレンスサービスがよい。読み聞かせる本に迷ったときなどすぐ相談に乗ってもらえる。開館時間が長くなり、祝日開館によって利用しやすくなった。レファレンスサービスにあたって、スタッフはなにか打ち合わせなどを行っているのだろうか？

図書館 基本的には個人の培ってきた情報だが、迷ったときは相談するようにしている。読み聞かせに行った時には報告書を提出するようになっている。必要に応じてコメントを入れ、情報交換をしている。あらゆることに対して、各人アンテナを張るようにしている。

利用者 D 不明になった本を図書館広報紙に載せて、探していることを知らせるようにしたらみつかるのではないかと？

図書館 検討したい。棚に張り出すなどはしている。

利用者 E 中学生は図書館でどんな催し物があるか全然知らない。広報を中学校に送って掲示したり、放送委員会などで放送してはどうか？

図書館 先生方の回覧で終わっているのかもしれない。図書委員会あてに広報紙の配布を考える。

利用者 F 中学校の図書委員会がどのぐらい機能しているかにもよるだろう。

利用者 E 利用者はいるが、担当の係がおらず、図書室が開いていなかったりする。図書室の利用は昼休みだけで、放課後は開いていない。

利用者 F 図書館の夕べの際、二中の生徒の朗読がとてもよかったのだが、中学生が聞きに来ていなかったのはもったいなかった。情報が行き渡らなかったのだろうか？

図書館 催し物の際は公民館や学校にチラシやポスターを配布しているが、どこに張り出すかはお任せである。場所によっては目につかないのかもしれない。新聞にも告知を出している。広報活動を頑張っていきたい。

利用者 B 市のムード全体、読書活動・文化活動に対して意識を上げなければいけないと思う。先日の市民フェスティバルに読み聞かせで参加したが、あまり子どもが来なかった。ステージの芸能と並行してやるのはなじまないのではないかと思った。

利用者 A 塩川では老人大学などで保育所で読み聞かせなどを行っている。

図書館 あまりいろいろな催し物を詰め込んでも煩雑になってしまうのではないかと考えている。発信は草の根運動のようにして、地道に行っていきたい。少しずつ変化はしているが足りないところがある。図書館の夕べは人気だが、講演会やトークは参加が少ない。先日の近代児童文学のトークは参加者が5名であったが、参加者の満足度は高かった。参加してもらうまでが難しい。

利用者 C 図書館だけでなく、いろんな施設でそういう悩みを抱えている。人を集めるのに、紙媒体はもう難しい時代に入った。インターネットも情報があふれていてなかなか目に触れない。今はCR、ロコミで広げていく。イベントなどもロコミ隊を作って広げていく。図書ボランティアの方々に協力いただくのも一つの方法である。

図書館 図書館の夕べは折り紙講座の後に告知をしてもらっていた。開催時期が中高生が部活で忙しい時期であったかもしれない。

参加者 D 先生も何も言っていなかった。

図書館 学校を通しての告知を考える。

参加者 C 先ほど市全体で読書文化を盛り上げなければいけないという話があったが、今国の方では第三次読書活動推進計画が作られており、市でもそれに基づいて読書活動推進計画が見直されることになる。それに基づいて市立図書館のあり方も変わっていくだろう。地域との連携も色濃くなっていくことと思う。

利用者 D 学習室の机についたてを付けるか、学校の机のようにして欲しい。知らない人の隣に座るのは抵抗がある。

4. 閉会